さくらサイエンスプログラムの新たな展開
――名称変更と招へい対象の拡大――

科学技術振興機構（ＪＳＴ）
さくらサイエンスプログラム推進本部

ＪＳＴが推進する「さくらサイエンスプログラム（国際青少年サイエンス交流事業）」では、２０１４年の事業開始以来、アジアを中心とする41の国・地域から、約３万３０００人の優秀な若者を日本に短期間招へいし、日本の先端的な科学技術や文化に触れる機会を提供している。さくらサイエンスによる来日が契機となり、留学や研究のために再来日する若者も続出している。

事業開始以来、年々、招へい者数も増加し、事業規模も拡大しているなか、２０２０年初旬以降は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外からの渡航制限のため、来日プログラムが実施できない状況が続いている。ＪＳＴではこれまでの交流により醸成された海外の送出し機関と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるために、また新たな交流に向けた準備のために、２０２０年度から様々なオンラインプログラムを実施し、関係機関の交流に対する支援を続けている。

また、事業名が２０２１年４月から、「さくらサイエンスプラン」から「さくらサイエンスプログラム」に変更され、招へい対象を従来の「アジアを中心とする41の国・地域」から、原則的に「全ての国と地域」に拡大し、プログラムのテーマも自然科学に加えて、人文・社会科学でも招へい可能となった。運営体制も新たになり、さくらサイエンスプログラム推進本部の本部長として岸輝雄（元外務大臣科学技術顧問）が着任した。

今年度の公募事業として、「さくら招へいプログラム（実際に来日して交流）」に加えて「さくらオンラインプログラム（オンラインのみで交流）」の２種類の交流計画の募集要項および公募スケジュールを４月15日に開始した（詳細はＨＰ参照）。また、ＪＳＴが受入れ機関として企画・運営する「直接招へいプログラム」では、海外の若者を対象に日本の大学を紹介するオンラインイベントを実施し、これまでに東京工業大学および東京大学を紹介した。また、日本と海外の高校生がオンラインで交流し、ＳＤＧｓなどのテーマについてディスカッションするプログラムも行っている。

今後もさくらサイエンスプログラムでは、日本と海外の科学技術交流のため、教育・研究機関のニーズに合った交流形態を提案し、実施する。

オンライン大学訪問（東京大学）

さくらサイエンスプログラムwebサイト

アジア・太平洋地域の科学技術とつなぐ　ＪＳＴ ＡＰＲＣ

ＪＳＴでは成長著しいアジア・太平洋地域について、政治・経済・社会・文化的観点を含めた相互理解の促進、科学技術協力加速の基盤整備のため、２０２１年４月１日にアジア・太平洋総合研究センター（ＡＰＲＣ）を設立した。センター長として白石隆（公立大学法人熊本県立大学理事長）が就任。ＡＰＲＣは調査研究、情報発信、交流推進を３本の柱として、アジア・太平洋地域における科学技術分野の連携・協力を拡大・深化し、我が国のイノベーション創出の基盤構築に貢献することを目指す。

ＡＰＲＣでは情報発信ツールとして、新たに２つのポータルサイトを開設した。

○「サイエンスポータル・アジアパシフィック」（日本語）
アジア・太平洋地域の最新の科学技術情報を紹介。

○「サイエンスジャパン」（英語）
日本の最新の科学技術に関する情報を主にアジア・太平洋地域に発信。

アジア・太平洋地域の科学技術の今を伝える
SciencePortal Asia Pacific

Science Japan